

慶応三年七月十七日より慶応三年七月廿日まで

P8310700 right

兵庫津名主並惣代、扇子代一台持来、縷々の事情を論し、右品は先づ預け返し遣す、且出迎等の義も同様断り□ふ、富沢(大)来る、佐藤(炮術方)與之助来る不面  
十八日巳 晴

竹島(房)来る、三浦(特)来る、申□にて帰る、松平下総守使者差越す、転賀として樽代

肴料(二円)贈らる、松平(□大輔)

同断(五方一方)贈らる、午前より小笠原方へ行き、竹内参会件々談合、斉藤(六)、添田(一)来る、伊賀守殿より斉藤(六)へ御沙汰

にて何れにも明日より兵庫土木に取懸りの積り也、江戸表より御用状(御代官へ返納金、並自分用達金為替の儀)、山口(駿)内状(惣並の吹聴)江連がより

二通(各公使上坂云々、時事細書件々)石野(□)より(□中家周旋菊池(□)より、(吹聴、並品海見分出立)糟屋(□)より、吹聴状、宅状(才輔方請□、並笠原常心配其外件々無事也)、森山(多)

宅状四通稻垣(藤)、同(一通是は斉藤(六)頼、幸使兵庫へ達す)、富沢(大)同(旅宿へ達す)、元造、金藏より貞周兩人宛十右衛門宅状即達す

各公使等、上坂の義に付、御城代より四通御達書有し、同役より同様の儀、外に三通廻し来る監察設楽(山)

P8310700 left

下坂着の廻状到来(泊り也)

十九日午 晴

大助を呼び昨の御用状、並其外書類数通渡し、夫々談し遣す、猶同人書類持来返す、小笠原(勢)竹内(隅)設楽(岩)参会に付、来趣申来る、午時より参会、昨の書類等返す、京地同役より御證文願へ御書取添御下げ御渡し有しを為持さし越す、調べ直しの積り也

廿日未 晴

添田(一)来り面す、私事也(志願の者周旋也)、遠藤(庄)用聞に来る不面、例齋御役所出勤、変革後本日

初日開局也、兵庫より佐次兵衛差向事件問合に来る、即時立帰る、京地御證文類しらべ直し、並新潟白石へ返書差込の儀同表同役へ頼遣す、森山(多)より笠原(常)志願文通届く、宅状へ

(一)内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。